

1 過去5年の山菜採りによる遭難発生状況

(1) 原因別発生状況

	発生 (件)	遭難者 (人)	原因別(人)						
			道迷い	熊	病気	滑落	疲労	転倒	不明
令和元年	10	12	7	5					
うち死亡									
令和2年	4	4	2	2					
うち死亡	1	1		1					
令和3年	13	16	10	4		1	1		
うち死亡									
令和4年	13	14	5	6	2	1			
うち死亡	2	2			2				
令和5年	14	17	10	6		1			
うち死亡	1	1				1			
合計	54	63	34	23	2	3	1		
うち死亡	4	4		1	2	1			

原因別では「道迷い」が最も多く、次いで「熊」による被害が多い。
死亡の原因は、「病気」が最も多く、次いで「熊」と「滑落」が多い。

(2) 年代別遭難者累計数(単位:人)

	道迷い	熊	滑落	病気	疲労	合計
30歳代	1					1
40歳代	3	2				5
50歳代	4	1				5
60歳代	3	6	1	1		11
70歳代	17	8	1	1		27
80歳以上	6	6	1		1	14
合計	34	23	3	2	1	63

年代別では、60歳代以上が全体の8割を超えている。
総じて、60歳代以上の「道迷い」と「熊」による被害が多い。

2 山菜採りに伴う遭難防止対策

「山の恵みの収穫よりも安全第一」と考え、次の点に留意する。

- (1) 気象情報の把握に努め、家族や知人に行き先、帰宅予定時間を知らせる。
- (2) 食料、雨具、ライター、懐中電灯、笛などを持参し、特に連絡手段として欠かせない携帯電話を携帯する。また、オレンジ色など目立つ色の服を着用する。
- (3) 熊との遭遇を避けるため、夜間、明け方、夕方の入山を避け、笛、鈴、ラジオ等で音を鳴らす。
- (4) 複数人で入山し、声を掛け合うなどして、常に互いの位置を確認しながら行動する。
- (5) 山での発病は大事に至る。自分の体力、健康状態に応じた行動を取り、決して無理はしない。
- (6) 遭難した場合は、夜間の行動はやめて、翌朝まで体力を温存するため、むやみに動かない。捜索中のヘリコプターが見えたら、目立つ色のタオルやシャツなどを大きく振って知らせる。